

授業科目名		学位取得必修科目 専修免(必修科目)	2単位	担当教員			
異文化コミュニケーション学特論Ⅰ (Special Studies in Inter-Cultural Communication I)				伊 佐 雅 子			
授業の到達目標及びテーマ							
異文化背景をもつ人とのコミュニケーションに影響を与える心理的・社会的要因について学び、異文化コミュニケーション研究への基礎知識を得ることができる。							
授業の概要							
異文化コミュニケーション研究に関する基礎的かつ入門的な知見を得ることを目的とする。 具体的には、文化的背景の異なる人々が交流し関係を構築していくコミュニケーションの過程において、文化に起因する要因がいかなる影響を与えているのかを個人、対人、集団、国家、国際レベルで研究する。							
授 業 計 画							
第1回： コミュニケーションの基礎概念		第 9 回： 異文化交渉と通訳					
第2回： 文化とコミュニケーション		第10回： カルチャーショックと適応過程					
第3回： メッセージとしての言語と非言語		第11回： 文化摩擦とコミュニケーション					
第4回： 自己と自己概念、知覚・認知過程と文化		第12回： 教育と異文化コミュニケーション					
第5回： イメージ、ステレオタイプ、偏見		第13回： マスメディア、グローバリズム、アイデンティティ					
第6回： 対人関係と異文化コミュニケーション		第14回： 言語選択と英語					
第7回： 組織における異文化コミュニケーション		第15回： 沖縄における異文化コミュニケーション					
第8回： 異文化のレトリック							
テキスト：古田暁監修『異文化コミュニケーション』改定版（有斐閣） L.A. サモバー・他『異文化コミュニケーション入門—国際人養成のために—』（聖文社） 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣）							
参 考 書：伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社） 石井敏・他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣） 西田ひろ子『異文化間コミュニケーション入門』 Gudykunst& Kim [<i>Communicating with Strangers</i>](McGraw-Hill)							
学生に対する評価：							
クラス参加度（出席、発言、口頭発表など 30%）、クイズ（20%）、プロジェクト・ペーパー（50%）							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必修科目 (異文化交流領域) 専修免(選択科目)	2単位	担当教員				
異文化コミュニケーション学特論Ⅱ (Special Studies in Inter-Cultural Communication II)				伊 佐 雅 子				
授業の到達目標及びテーマ								
異文化コミュニケーション学特論Ⅰに引き続き、異文化コミュニケーション研究への理解を深める。理論面は受講生の発表と討議形式をとり、異文化コミュニケーションに関する既存の代表的理論の考察と批評ができることを目標とする。次に、異文化摩擦の事例研究を通してそれらの要因を考察することで、自国の文化と相手の異文化に対する相互理解を深める。また、多文化共生社会に不可欠なコミュニケーション能力を育成するための英語教育のあり方についても考察する。								
授業の概要								
異文化コミュニケーションの理論と実践を学ぶ。テーマとして、メッセージ関係、対人関係、集団・組織、異文化接触中心の理論、コミュニケーション能力の理論などを扱う。実践面では、地域、民族、言語・非言語、ジェンダー、世代など広い意味での文化的背景の異なる人々が接触し、交流・交渉する際に起きるギャップ、すれ違いなどの結果起きた異文化摩擦の事例研究、ビデオ鑑賞、討論などの方法で進めてゆく。具体的には、海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人、国内・海外での摩擦、国際交流・協力、メディア・スポーツ交流、英語教育などを取り上げる。								
授 業 計 画								
第 1 回：	理論	メッセージ中心の理論（線形系コミュニケーションモデル、意味協応調整理論）	第 8 回：	実践面 海外留学、海外赴任				
第 2 回：		対人関係中心の理論（帰属理論、間人主義理論、自己開示、）	第 9 回：	帰国・帰郷				
第 3 回：		集団・組織中心の理論（集団主義・個人主義、アイデンティティ理論、シンボリック相互作用理論など）	第 10 回：	日本在住外国人				
第 4 回：		異文化接触中心の理論（不確実性減少理論、異文化適応理論）	第 11 回：	国内・海外での異文化摩擦				
第 5 回：		コミュニケーション能力（コンピテンス、コミュニケーション調整理論、非言語コミュニケーション、異文化リテラシーなど）	第 12 回：	国際文化交流・協力				
第 6 回：		偏見、イメージ、ステレオタイプ	第 13 回：	メディア・スポーツ交流				
第 7 回：	理論	空間・時間・言語と「場」の理論（ゲブサーの意識構造理論）	第 14 回：	国際理解教育（開発教育）				
			第 15 回：	グローバル化と英語教育				
テキスト：石井敏・他『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣 西田ひろ子編『異文化間コミュニケーション入門』創元社 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣）								
参 考 書：古田暁・他『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣） 池田理知子・E.M.クレマー著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』（名古屋大学出版） Kim & Gudykunst [Theories in Intercultural Communication] (Sage) William B. Gudykunst [Theorizing about Intercultural Communication] (Sage)								
学生に対する評価：クラス参加度（出席、発言、口頭発表など 30%）、小テスト（20%）、プロジェクト・ペーパー（50%）								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
	試験 (中間・期末試験)							
	小テスト・ 授業内レポート							
	授業態度・ 授業への参加度							
	受講者の発表							
	演 習							
	出 席							
	その他							

授業科目名	学位取得選必修科 (英語教育領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員				
英語教育学特論Ⅰ (Special Studies in English Education I)			Daniel Broudy				
授業の到達目標及びテーマ							
The principal aim of this course is to develop in students a critical awareness of knowledge as a social and institutional construction and what this means to the development of the English language learner within communities and societies across the world.							
授業の概要							
This course introduces students to theories of knowledge, practices of knowledge generation, and their connections to free and democratic societies. Students are asked to think and write critically about the topics and to contemplate their impact on English language teaching in Japan.							
授 業 計 画							
第 1 回 : Introduction to theories of knowledge							
第 2 回 : Michael Polanyi - epistemology							
第 3 回 : Alasdair MacIntyre - epistemology							
第 4 回 : Reproduction in Education							
第 5 回 : Pierre Bourdieu							
第 6 回 : dialogic inquiry							
第 7 回 : Lev Vygotsky							
第 8 回 : Representation in Media							
第 9 回 : Stuart Hall							
第 10 回 : Student-led discussion of selected research project 1							
第 11 回 : Student-led discussion of selected research project 2							
第 12 回 : Student-led discussion of selected research project 3							
第 13 回 : Student-led discussion of selected research project 4							
第 14 回 : Student-led discussion of selected research project 5							
第 15 回 : Summing up							
テキスト : Dialogic Inquiry: Building on the Legacy of Vygotsky (Gordon Wells)							
参 考 書 :							
学生に対する評価 :							
Students will be evaluated on the quality of their responses to the discussion questions at the end of each class, their ability to research the subject they are assigned, and quality of their presentation							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名	学位取得選必修科目 (英語教育領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員				
英語教育学特論Ⅱ (Special Studies in English Education II)			Daniel Broudy				
授業の到達目標及びテーマ							
This course is follow-on of discussions taken up in 英語教育学特論Ⅰ where the goal is to further develop a critical awareness of knowledge as a social and institutional construction and what this means to the development of the English language learner within communities and societies across the world.							
授業の概要							
This course introduces students to theories of knowledge, practices of knowledge generation, and their connections to free and democratic societies. Students are asked to think and write critically about the topics and to contemplate their impact on English language teaching in Japan.							
授 業 計 画							
第 1 回 : Hegemony theory in education							
第 2 回 : Antonio Gramsci							
第 3 回 : Cultural Imperialism in the classroom							
第 4 回 : Herbert Schiller							
第 5 回 : Gender and Language in the classroom							
第 6 回 : Deborah Cameron							
第 7 回 : George Lakoff							
第 8 回 : Language: The Loaded Weapon							
第 9 回 : Dwight Bollinger							
第 10 回 : Student-led discussion of two high stakes tests							
第 11 回 : Student-led discussion of case studies in test ethics							
第 12 回 : Student-led discussion of language testing research reports							
第 13 回 : Student-led discussion of a large scale testing project							
第 14 回 : Student-led discussion of the impact of technology on language testing							
第 15 回 : Summing up							
テキスト : There is no textbook but teacher-prepared readings will be used.							
参 考 書 :							
学生に対する評価 :							
Students will be evaluated on the quality of their responses to the discussion questions at the end of each class, their ability to research the subject they are assigned, and quality of their presentations.							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必修科目 (英語教育領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員				
英語教授法特論 (Special Studies in English Language Teaching)				山 里 恵 子				
授業の到達目標及びテーマ								
中学校・高等学校・大学でコミュニケーション能力をどのレベルに設定すれば社会の要望に応えられるかを探求する。語学技術指導においては、同時通訳の諸技術も大いに活用する。								
授業の概要								
本講義では、学習者と学習者を取り巻く環境に焦点をあて、コミュニケーション重視の英語教育を学ぶ。また、語学教育上有用だと言われる同時通訳の諸技術を活用する方法を研究する。それと同時に、グローバル社会において、中学校・高等学校・大学でコミュニケーション能力をどのレベルに設定すれば社会の要望に応えられるかを探求する。その際、教科書の活用法および改善法も検討する。								
授 業 計 画								
第 1 回： 学習者を取り巻く環境		第 9 回： 同時通訳技術と大学英語教育（音声と文字）						
第 2 回： 異文化受容について（グローバル社会）		第 10 回： コミュニケーション重視の教案作成（中学校用）						
第 3 回： 異文化受容について（グローバル社会）		第 11 回： コミュニケーション重視の教案作成（高等学校用）						
第 4 回： コミュニケーションの構成		第 12 回： English Language Teaching in East Asia Today, Japan						
第 5 回： 中学校学習指導要領（日本語・英語）、テキスト、授業の検討		第 13 回： English Language Teaching in East Asia Today, Korea						
第 6 回： 高等学校学習指導要領（日本語・英語）、テスト、業の検討		第 14 回： English Language Teaching in East Asia Today, China						
第 7 回： 同時通訳技術と中学校英語教育（音声と文字）		第 15 回： English Language Teaching in East Asia Today, Taiwan						
第 8 回： 同時通訳技術と高等学校英語教育（音声と文字）		第 16 回： English Language Teaching in East Asia Today, Singapore						
テキスト：								
1.橋本満弘・石井敏編「英語コミュニケーションの理論と実際」桐原書店 2.萬戸克憲著「国際化と英語科教育」大修館								
3.山内進編著、「言語教育入門」、大修館 4.文部科学省、「中学校学習指導要領」								
5.文部科学省、「高等学校学習指導要領」 6.中学校、高等学校用英語教科書 1 シリーズ								
7.Ho Wah Kam & Ruth Y L, Wong, <i>English Language Teaching in East Asia Today</i> , Eastern,University Press								
参 考 書： 佐藤郡衛・林英和著、「国際理解の授業づくり」、教育出版								
浦島 久・クライド ダブポート著、「1分間英語で自分のことを話してみる」、中経出版								
荒木博之著、「日本語が見えると英語も見える」、中公新書								
柴田パネッサ著、「実践ゼミ ウィスパリング同時通訳」、南雲堂								
学生に対する評価：								
トピックに沿った英語と日本語のプレゼンテーションをし、Q－Aまで対応することを基本とする。学習者の環境、コミュニケーションの意味、同時通訳の技術等をいかに捉え 1 時間の授業に盛り込む事が出来るかを評価の対象とする。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○				}	
授業態度・ 授業への参加度		○	○	○	○	○		総合 100%
受講者の発表		○	○	○	○	○		
演 習		○	○	○	○	○	}	
出 席								1/3 欠承認
その他								

授業科目名		学位取得選必修科目 (英語教育領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員			
英米文学特論 (Special Studies in British and American Literature)				Christopher Melley			
授業の到達目標及びテーマ Students aim to develop a critical perspective on American and British culture by engaging in readings and discussions of selected creative literary works well known throughout the past 500 years.							
授業の概要 This is a survey course in literature that focuses on British and American culture through well-known works in fiction, poetry, and drama. Critical discussions of these works are taken up by both the teacher and the students with the purpose of developing skills in critical reflection and writing.							
授 業 計 画							
第 1 回 :	English Literature: The Wanderer, The Battle of Maldon, Excerpt from Beowulf	第 8 回 :	Romantic Poets, William Wordsworth, The World is Too Much, Lyrical Ballads, Preface, Samuel Taylor Coleridge, Kubla Khan, John Keats, Ode to Autumn				
第 2 回 :	Popular Ballads of the Later Middle Ages: The Cherry-tree Carol, The Wee Wise Man, The Unquiet Grave, The Birth of Robin Hood	第 9 回 :	American Literature, John Winthrop, A Model of Christian Charity				
第 3 回 :	Hamlet, Selected sonnets	第 10 回 :	Ralph Waldo Emerson, Self-Reliance, Henry David Thoreau				
第 4 回 :	Ben Johnson, Meditation XVII, Elegy 19: To His Mistress Going to Bed, Song: To Celia, Robert Herrick, To the Virgins, To Make Much of Time, Upon Julia's Clothes, Andrew Marvell, To His Coy Mistress	第 11 回 :	Walt Whitman, Leaves of Grass, excerpts				
第 5 回 :	John Milton, Sonnet XVII, Samson Agonistes, lines 1-109, Paradise Lost, lines 1-120	第 12 回 :	Mark Twain, Huckleberry Finn, excerpts, Letters from the Earth, excerpts				
第 6 回 :	Jonathan Swift, A Modest Proposal, excerpts, Alexander Pope, An Essay on Criticism, lines 1-87, Thomas Gray, Elegy Written in a Country Churchyard	第 13 回 :	African-American writers, Slave narratives, excerpts, Paul Lawrence Dunbar				
第 7 回 :	Oliver Goldsmith, The Deserted Village, lines 1-430, Robert Burns, To a Mouse	第 14 回 :	Langston Hughes, e.e. Cummings, William Stafford				
		第 15 回 :	Arthur Miller, Death of a Salesman, Final				
テキスト : Readings provided by professor							
参 考 書 :							
学生に対する評価 : PRESENTATION (10%), WRITING PROJECT 1 ・ ANALYSIS OF TWO POEMS (10%), WRITING PROJECT 2 ・ ANALYSIS OF A SHORT STORY (10%), WRITING PROJECT 3 ・ ANALYSIS OF DRAMA (10%), 4 QUIZZES (5% each; 20%), FINAL EXAM (30%), PARTICIPATION (10%)							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選択科目 専修免（選択科目）	2単位	担当教員			
地域研究特論 (Okinawan Studies)				Anthony P. Jenkins			
授業の到達目標及びテーマ： This course is taught in English with the aim of improving the students' ability to absorb academic information in that language. It also aims to present a great deal of information on a narrow but formative period in recent Okinawan history.							
授業の概要： The primary focuses of this course are a detailed study of post-war Okinawa and the reading and use of primary sources in interpreting that era. Thereafter, there will be a brief, general survey of some of the remarkable cultural creativity which has defined Ryukyu and Okinawa in a worldwide context. The approach to those themes will include a range of challenges to accepted views and myths which are current in Okinawan society.							
授 業 計 画							
Week 1	Introduction: Okinawan Studies; outline of Okinawan history to WWII						
Week 2	Battle of Okinawa, the US experience and the Okinawan experience documentary source: the Okinawan internment camp at Shimabuku.						
Week 3	Post-war Okinawa, the US occupation and its governmental institutions; documentary source: Ordinance 13 establishing the GRI						
Week 4	Post-war Okinawa, Okinawan and Ryukyuan governmental institutions; documentary sources: various memoranda between the two sides of government						
Week 5	Post-war Okinawa: the land seizures; documentary source: petition from land owners at Bolo and related documents						
Week 6	Post-war Okinawa: crimes and incidents, 1945-72 documentary source: statements on petitions relating to two fatal road accidents						
Week 7	Post-war Okinawa: notable Americans (Deputy Governors and High Commissioners case studies: Eagles, Sheetz and Caraway						
Week 8	Post-war Okinawa: notable Okinawans (<i>chiji</i> and chief executives, Senaga Kamejiro and Inamine Ichiro); documentary sources: Yara Chobyō and the flag-raising campaign.						
Week 9	Post-war Okinawa: aspects of the reversion movement						
Week 10	Post-reversion, the six <i>chiji</i> , their policies and achievements						
Week 11	Education, 1879 to 21 st century documentary sources: scholarship withdrawal from Communist sympathisers						
Week 12	American attitudes to Okinawa documentary source: <i>New York Times</i> and <i>Time</i> article 1952						
Week 13	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 1 (lacquer, ceramics, textiles, Ryukyu glass, and the Arts and Crafts movement in Okinawa)						
Week 14	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 2 (karate, <i>eisa</i> , dance and <i>kumiodori</i>)						
Week 15	<i>Sekai isari</i> : World Heritage sites in Okinawa						
テキスト： Lecture texts, and documentary sources beyond those outlined above will be distributed at the beginning of the course.							
参 考 書： G.H. Kerr, <i>Okinawa: The History of an Island People</i> (Tuttle, 1958) and a list of some 20 other important English-language publications will be distributed in the first class.							
学生に対する評価： Preparation for class 15%, regular attendance in class 15%, participation in discussion 20%, essay of approved theme 50%							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選択科目 専修免（選択科目）	2単位	担当教員				
社会言語学特論 (Special Studies in Sociolinguistics)				宮 平 勝 行				
授業の到達目標及びテーマ								
本講義では英語圏の言語共同体を中心に土地ことば、女（男）ことば、若者ことば、民族言語、職業語、階級言語、隠語などの様々なことばの変種が社会的にどのような役割を担い、人と人のコミュニケーションにどのような影響を及ぼすのかを考察する。多様なことばの位相を把握し、その社会的な役割を理解することによって、異文化コミュニケーション能力を養成するための外国語教育のあり方について批判的に考察する能力を養成する。								
授業の概要								
社会言語学に加えて語用論、談話研究、コミュニケーション研究の領域でことばの社会的役割を論じた英語の文献を事前に読み、ゼミ形式で批判的読解訓練を重ねる。その上で様々な言語変種の社会・文化的機能、及び外国語を学ぶ際に経験する課題とその打開策についてクラス・ディスカッションを行う。								
授 業 計 画								
第 1 回： 社会言語学、ことばの社会学、談話研究、コミュニケーション研究の紹介		第 8 回： ことばの変容						
第 2 回： 標準英語および英語のバラエティー		第 9 回： ことばと文化 –Sapir-Whorf 仮説						
第 3 回： 標準英語とピジン・クリオール		第 10 回： ことばの民族誌 –Western Apache の口語英語						
第 4 回： 英語の話しことばとコード		第 11 回： ことば・パワー・仲間意識 – <i>Tu and Vous</i> , Address Terms, Politeness						
第 5 回： 英語圏と言語共同体		第 12 回： ことばと相互行為 –スピーチアクト理論から会話分析まで						
第 6 回： 英語のバリエーション –社会階級による差異		第 13 回： ことばとジェンダー –‘Report talk’ & ‘Rapport talk’ 支配か文化差か？						
第 7 回： 英語のバリエーション –アイルランド、インド、シンガポールの事例		第 14 回： ことばと民族 –Ebonics は英語か？						
第 8 回： ことばの変容		第 15 回： 言語政策・言語管理・言語維持 –ハワイ、ウェールズ地方、ノルウェーの事例						
テキスト：								
Holmes, Janet. (2013). <i>An Introduction to Sociolinguistics</i> (4th. ed.). Harlow, England: Pearson Education.								
参 考 書：								
1. 岩田祐子・重光由加・村田泰美（2013）『概説 社会言語学』ひつじ書房								
2. Kiesling, S. F. & Paulston, C. B. (Eds.). (2005). <i>Intercultural Discourse and Communication: The Essential Readings</i> . Oxford: Blackwell.								
学生に対する評価： 受講生の成績は小テスト（2回、20%）、クラス発表（20%）、学期末レポート（40%）、授業活動への貢献度（20%）で判定する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
	学期末レポート	○	○			○		40
	小テスト	○	○					20
	授業態度・ 授業への参加度			○	○			20
	受講者の発表			○	○	○		20
	演 習							評価に加えず
	出 席			○				
	その他							

授業科目名		学位取得選択科目 専修免（選択科目）	2単位	担当教員				
国際理解教育特論 (Global Issues in Education)				Craig Jacobsen				
授業の到達目標及びテーマ								
This course is designed to help students learn about other cultures and global issues and how to introduce these cultures and issues to others. Considerable attention will be given to global issues in the teaching of English in Okinawa and Japan.								
授業の概要								
Students should note that this class will be conducted primarily in English. They should also note that the readings will be in English and the research paper must be submitted in English. In addition to lectures, readings, and discussions, the class will utilize individual research and presentations to give students practical experience in understanding and helping others understand global issues.								
授 業 計 画								
第 1 回：Registration and Course Introduction		第 9 回：Teaching EIL						
第 2 回：Defining Key Terms		第 10 回：Working with International Students						
第 3 回：World Views, World Systems		第 11 回：Working with International Teachers						
第 4 回：International Organizations and English		第 12 回：Language and Culture						
第 5 回：English as an International Language (EIL) I		第 13 回：Teaching Culture in the English Classroom						
第 6 回：EIL II		第 14 回：Human Rights Education						
第 7 回：EIL in Japan		第 15 回：Comments on Research Papers						
第 8 回：EIL in Okinawa								
テキスト：No required text.								
参 考 書：担当者作成の資料を適宜配布								
評価方法・評価基準：								
Attendance, class participation, homework assignments and presentations (50%) research paper (50%)								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
	試験 (中間・期末試験)							
	小テスト・ 授業内レポート							
	授業態度・ 授業への参加度							
	受講者の発表							
	演 習							
	出 席							
	その他							
履修上の注意：								

授業科目名		学位取得選択科目 専修免（選択科目）	2単位	担当教員			
同時通訳・逐次通訳実践 (Practicum in Simultaneous and Consecutive Interpretation)				A. David Ulvog			
授業の到達目標及びテーマ							
より完成度の高い同時通訳・逐次通訳を目指す。逐次通訳においては、人前に立って通訳が出来るようになる事を目標とする。同時通訳においては、日・英両言語が綺麗に発音できる事、ニュース番組の同時通訳が出来るようになる事を目標とする。							
授業の概要							
本講義では、本学で行われる講演と月曜礼拝メッセージなどの通訳の実践に向けての訓練を行う。 逐次通訳の訓練においては、トータル・パフォーマンスを軸に、メモを取り、姿勢、日本語のイントネーションに注目し、より完成度の高い通訳を目指す。同時通訳の訓練においては、日本語→英語の即時変換が出来るよう単語やフレーズのクイック・レスポンスの練習を徹底して行う。また、通訳上、予測能力をつけるためのシャドウイング、背景知識養成として新聞（日本語、英語）を課す。							
授 業 計 画							
第 1 回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り		第 8 回： 同時通訳訓練、クイック・レスポンス。教材					
第 2 回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り、通訳		第 9 回： と関連するジャーナル(日・英両語)を背景知識の構築練習として丁寧に読み、単語、句、					
第 3 回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモとり、通訳、トータル・パフォーマンス（英語、日本語のイントネーション指導）		第 10 回： 特殊表現、専門用語に慣れ親しむ。					
第 4 回： 逐次通訳テスト：トータル・パフォーマンス		第 11 回： 同時通訳テスト： LL 教室。レシーバーを通して聞くことばを同時通訳する。					
第 5 回： 同時通訳訓練、CNN、NHK などの2 カ国語番組テープで日・英両語のシャドウイングモデルについて		第 13 回：					
第 6 回： 発音、イントネーションを徹底して訓練する。		第 14 回： 同時通訳実践：学内で開催される講演、礼拝等の同時通訳。(モニターされる)					
第 7 回： 同時通訳訓練、教材に使用されている単語、句、定型表現等を同時通訳の1 技術クイック・レスポンスを用いて英・日両言語への即座の反応を訓練する。		第 15 回：					
テキスト： CNN、NHK 等 2 カ国語ニュースをトランスクリプトしたもの、VTR、テープ 雑誌：『CNN English』 朝日出版（適宜使用） 『通訳翻訳ジャーナル』 イカロス出版（適宜使用）							
参 考 書： Becoming a Translator, Douglas Robinson, Routledge, London and New York 中村保男・谷田貝常夫著 『英和翻訳表現辞典』 研究社 松本 亨著 『これを英語で何というか?』 英友社 小林淳夫著 『通訳の極意』 南雲堂フェニックス その他： 普通の辞典							
学生に対する評価：							
1) 第 4 回目： 逐次通訳のテストはトータル・パフォーマンスで評価する。 評価内容： ①メモが取れている ②通訳者のマナーが身についている ③日・英のイントネーション ④訳の正確さ ⑤聴衆へのアピール							
2) 第 11 回目、12 回目： レシーバーを通してのテスト。 評価内容： ①日・英シャドウイング（ニュース番組） ②日・英同時通訳（ニュース番組）							
第 13 回目、14 回目、15 回目： 講演・礼拝等の同時通訳							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		総合 100%
小テスト・ 授業内レポート	○	○					
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		
受講者の発表					○		
演 習				○	○		1/3 欠承認
出 席							
その他							

授業科目名	学位取得選択科目 専修免（必修科目）	2単位	担当教員
English Rhetoric: Theory and Practice			Daniel Broudy

授業の到達目標及びテーマ			
The primary aim of this course is to develop in students a critical awareness of rhetoric in modern discourse, its uses in political, public and private institutions and its connections to power and the methods of persuasion.			

授業の概要			
This course examines theories of rhetoric and how they apply to discourses in various fields of public, academic and political inquiry. This course also examines rhetoric and its relationship to power in society. Coursework includes close readings of texts, speech transcripts, and a documentary film from which will emerge a student presentation.			

授 業 計 画			
第 1 回：	Introductions & critical discussions of research topics: Assigned readings on “Definition”	第 8 回：	workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on “Evaluation of evidence”
第 2 回：	Discussions of readings, White’s “Democracy,” lecture and PowerPoint presentation on “Definitions”: Assigned essay	第 9 回：	Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on “Evidence evaluation”: Assigned readings on “Analyzing warrants”
第 3 回：	workshop & critical discussion of student essays: Assigned revisions	第 10 回：	Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on “Warrants”: Assigned essay”
第 4 回：	finish workshop: Assigned readings on “Defending a Claim”	第 11 回：	Documentary film (Orwell Rolls in His Grave): Assigned questions for critical reflection
第 5 回：	Discussions of readings, “Dr. Dino,” lecture and PowerPoint presentation on “Claims”: Assigned essay	第 12 回：	Discussions
第 6 回：	workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on “Appeals”	第 13 回：	workshop & critical discussion of student essays
第 7 回：	Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on “Appeals”: Assigned essay	第 14 回：	workshop & critical discussion of student essays
		第 15 回：	Presentations

テキスト			
The Structure of Argument. (Annette Rottenberg & Donna Haisty Winchell, 2009) Boston: Bedford St. Martins (ISBN 13: 978-0-312—48048-6) (This text book can also be checked out of the library)			

参 考 書： Website: http://americanrhetoric.com/			
---	--	--	--

学生に対する評価： Essays40%、Participation20%、Presentation.40%							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名	学位取得選択科目 専修免（選択科目）	2単位	担当教員
調査研究法特論 (Special Studies in Research Methods)			近藤 功行
授業の到達目標及びテーマ 大学院生は、既存の研究蓄積を前提にした上で、次のステップに入っている。そのため、修士論文作成から修了後の研究能力のレベルアップをはかることを念頭に、調査手法を学ぶことが必要と考えている。博士課程進学も見据えた教法も視野に入れ、指導を行う。			
授業の概要 調査研究は、周到な準備を行い取り組む必要がある。実際、フィールドを伴う調査では「予備(pre)調査」「本調査」、その後の落ち穂拾いとなる「追跡調査」の流れで検証を深めることとなる。調査手法そのものでは、「インタビュー調査」「聞き取り調査」「参与観察調査」など、独自性が問われる手法が出てくる。また、「文献調査」のみで、論文の全体構成を行う場合もあるが、文献検索そのものは、全ての大学院生にとって必須アイテムとなる。各自の研究において、先行研究を押さえることを含め、「引用文献＝特定の頁を挿入することとなる、参考文献＝特定箇所を指定せず紹介する」、この2種類の文献挿入は必須である。研究はその後、課題設定に応じた研究手法の駆使が必要となる。こうした一連の研究過程の中で、課題・仮説をどう立てるか、決してルポタージュにならない「事例研究」とは何か、「アンケート調査」と回収率との関係はどう考えるべきか、など各自の研究に応じて立ちはだかるであろう種々の内容が想定される。そのため、こうした内容を解決するための事前学習が必要となる。講義は前述した内容を1つでも解決することを目標とし、以下の授業計画の流れで進める。英語教育を主眼とする大学院生にとっては、英語教育関連の研究方法に関する情報を整理した上で、日常的な英語教育現場から得られる取材やインタビューを通し、過去の研究成果の確認、さらに未解明な問題の整理、その調査研究デザインをどうするか、こうした流れをとる研究に着手する大学院生出てくると考えられる。よって、研究デザインはあくまで主査＝修士論文指導教員（以下、「主査」と記す）のスタイルにあわせるものとして、最後に以下の点に留意する。本学大学院では、学年進行に伴い例年3月期、「修士論文構想発表会」を実施している。そのため、本講義の流れの中で講義を終える時期、この発表会に照準をあわせ、当日配布する簡易発表物の作成が本講義からも、整ってることが理想であるため、当該発表会をバックアップすることも視野に入れる。こうした必要性も踏まえて、本講義は主査をバックアップすることを念頭において実施して行く。			
授 業 計 画 （第1回～第7回は①②領域とも合同講義）			
第1回 【イントロダクション】 仮説・課題設定研究背景と目的、それに伴う研究手法は何か —調査研究を行う上での倫理面の配慮と検証— 第2回 【論文作成技法を学ぶ＝その1】 これから作りあげる修士論文に犯人像を写し出すテクニック—アメリカ型博士論文全訳経験に基づく傾向と対策から— 第3回 【論文作成技法を学ぶ＝その2】 終章部に脆弱さがあるアメリカ型博士論文、そこをどう補強するか—論文を通して描ける1枚の勝負図と、研究を通して出てくる今後の「課題」— 第4回 【論文作成技法を学ぶ＝その3】 先行研究の探し方、研究方法のたて方を学ぶ 第5回 【調査手法を学ぶ＝その1】 積み重ねてみる調査の実例から何が分析できるのか—親族図作成をもとに得られる調査、毎日某かのデータをとる調査＝そこから得られる視点— 第6回 【調査手法を学ぶ＝その2】 聞き取り調査の実例 第7回 【調査手法を学ぶ＝その3】 「質(＝定性)的研究手法 qualitative research」を学ぶ—直面する各自の研究は社会からどのようなデータを探ろうとしているのか、ここを考究— 《キーワード＝インタビュー調査／歴史分析(歴史的記録の分析)／フィールドワーク／参与観察(participant observation)／エスノメソドロジー／事例研究(ケーススタディ)／内容分析(テキスト分析)／会話分析(談話分析)／文書・広告・映像分析(content analysis)／[シンボリック相互作用論／グラウンデッド・セオリー]》・・・キーワードの概説 第8回 【調査手法を学ぶ＝その4】 「量的調査手法 quantitative research」を学ぶ —医学部医学科4年次実習指導(＝他分野)経験から教示できる視点、ほか— 第9回 【研究現状の発表(＝中間発表)＝その1】 研究デザインのディスカッション&補強のためのコメント 第10回 【研究現状の発表(＝中間発表)＝その2】 前回指摘されたコメントを基に加筆作業を行っ			

授業科目名		学位取得選択科目 専修免（選択科目）	2単位	担当教員			
比較文学特論 (Special Studies in Comparative Literature)							
授業の到達目標及びテーマ							
これまでの文学研究の中で蓄積されたテキスト読解の基本的技術を習得し、英語・日本語いずれの文献においても十分な分析ができるレベルに到達することを授業の目標とする。その基礎の上に、文学理論および隣接するジャンル（歴史学、文化学など）への知識を深めながら、オキナワ文学の研究への比較文学的アプローチという新領域を切り開く。							
授業の概要							
本講義では、近現代における沖縄出身者による（オキナワ文学）と、英語圏文化の「周縁」の意識がにじみ出た英文学作品を、最近の研究アプローチの動向（ポストコロニアル理論、身体論、都市論など）を踏まえつつ研究する。ここで言う比較とは、日本文学や英文学という縦割りの発想ではなく、世界的な視野に立ち、言語を横断するという、横割りの発想に基づくテキスト分析の手段にほかならない。							
授 業 計 画							
第 1 回： オキナワ文学とは何か		第 9 回： 空間論—場所・地域について考える（2）					
第 2 回： 海外（英語圏）におけるオキナワ文学研究の動向		第 10 回： 作品研究（1）—ニュージーランド文学の作品					
第 3 回： 比較文学の研究史		第 11 回： 作品研究（2）—オキナワ文学の作品					
第 4 回： 文学理論（1）—新歴史主義		第 12 回： 研究発表（1）					
第 5 回： 文学理論（2）—ポストコロニアル理論とジェンダー論		第 13 回： 研究発表（2）					
第 6 回： 身体論（1）		第 14 回： 研究発表（3）					
第 7 回： 身体論（2）		第 15 回： 研究発表講評・まとめ					
第 8 回： 空間論—場所・地域について考える（1）							
テキスト： Michael Molasky and Steve Rabson eds, <i>Southern Exposure</i> （U of Hawaii P, 2000） 岡本恵徳・高橋敏夫編『沖縄文学選—日本文学のエッジからの問い』（勉誠出版、2003 年）							
参 考 書： Jonathan Culler, <i>Literary Theory</i> (Oxford U P, 1997)							
学生に対する評価： 出席・授業中の議論への参加 20% 小テスト（文学理論に関する理解度確かめる）30% 期末レポート（各自の問題意識に沿った作品を選び、アプローチ方法を明確に意識する） 50%							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名	学位取得選必修科目 (異文化交流領域) 専修免(選必修科目)	4単位	担当教員				
異文化コミュニケーション学特別演習Ⅰ (Inter-Cultural Communication ThesisⅠ)			伊 佐 雅 子				
授業の到達目標及びテーマ							
異文化コミュニケーションに関連したテーマの修士論文を作成するための基礎的研究手法を学びます。海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人が直面する問題、国内（日本&沖縄）での摩擦、国際交流・協力、メディア・スポーツ交流、グローバル化と英語の普及の問題、日米の言語・非言語コミュニケーションの比較などが、テーマとなる。また、沖縄の文化とコミュニケーションのテーマも扱う。							
授業の概要							
異文化コミュニケーションに関連したテーマの修士論文を作成するために必要なテーマの設定と研究方法について検討し、助言を行う。具体的には、受講生自身が提起したテーマについて、その意義を検討し、これまでの研究のレビュー、理論的検証、及び妥当な研究方法などを共に研究する。							
授 業 計 画							
第 1 回：研究テーマの設定 ーテーマの決め方・絞り方ー	第 9 回：中間報告						
第 2 回：論文作成の基礎 ー文献検索、論文形式、APA スタイルー	第 10 回：研究計画案の提出						
第 3 回：テーマ案に沿った先行研究調査	第 11 回：章立て案の作成						
第 4 回：テーマ案に沿った先行研究調査	第 12 回：文献リストの作成						
第 5 回：研究方法の模索	第 13 回：個別指導						
第 6 回：研究方法の模索	第 14 回：個別指導						
第 7 回：研究方法の模索	第 15 回：個別指導						
第 8 回：研究テーマ案の提出							
テキスト：石井敏・久米昭元 『異文化コミュニケーション研究法ーテーマの着想から論文の書き方までー』有斐閣 1900 円 波平恵美子・道信良子『質的研究：Step by Stepーすぐれた論文作成をめざしてー』医学書院 2400 円							
参 考 書：住原則也『異文化の学びかた・描きかた』世界思想社 1800 円							
学生に対する評価：参加度（30 %）、研究計画書（30 %）および中間報告（40%）							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 （中間・期末試験）							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必修科目 (異文化交流領域) 専修免(選必修科目)	4単位	担当教員			
異文化コミュニケーション学特別演習Ⅱ (Inter-Cultural Communication Thesis Ⅱ)				伊 佐 雅 子			
授業の到達目標及びテーマ							
前期に引き続き、修士論文作成に資することをめざす。海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人が直面する問題、国内（日本＆沖縄）での摩擦、国際交流・協力、メディア・スポーツ交流、グローバル化と英語の普及の問題、日米の言語・非言語コミュニケーションの比較などが、テーマとなる。また、沖縄の文化とコミュニケーションのテーマも扱う。							
授業の概要							
前期での研鑽を踏まえ、各自が進めている異文化コミュニケーション関連の研究について、進捗状況を数回にわたり報告してもらい、軌道修正および内容の精緻化を図る。							
授 業 計 画							
第 1 回：序論提出		第 8 回：論文の第 1 稿提出					
第 2 回：調査、分析、フィールドワーク等の報告		第 9 回："					
第 3 回："		第 10 回：論文第 2 稿提出					
第 4 回："		第 11 回："					
第 5 回："		第 12 回：論文第 3 稿提出					
第 6 回：各章の中間報告		第 13 回：最終報告					
第 7 回：参考文献リストの提出		第 14 回：要旨の提出					
		第 15 回：修士論文完成					
テキスト：石井敏・久米昭元『異文化コミュニケーション研究法—テーマの着想から論文の書き方まで—』有斐閣 1900 円 波平恵美子・道信良子『質的研究：Step by Step—すぐれた論文作成をめざして—』医学書院 2400 円							
参 考 書：住原則也『異文化の学びかた・描きかた』世界思想社 1800 円							
学生に対する評価：参加度（20%）、中間報告（30%）、最終報告（50%）							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 （中間・期末試験）							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必科目 (異文化交流領域) 専修免(選必科目)	4単位	担当教員			
異文化コミュニケーション学特別演習Ⅰ (Inter-Cultural Communication Thesis I)				近 藤 功 行			
授業の到達目標及びテーマ							
沖縄と他の地域の内容を概観することは、2つの文化を見ることにつながる。自文化においても、これまで暮らしていない地域に入ることに限しては異文化研究の視点をはらむことになる。そこから得る新知見が研究上重要な意味をもつ。これから研究に入る人達にこの新知見を得る方法を導き出すには多角的・重層的な視点や調査研究が必要であることを述べ、沖縄に関連した研究事例を概説する。							
授業の概要							
沖縄の人々がこれまで長寿でいられた背景には、人・環境・気候・社会文化的背景、等の連鎖があると考えられる。今日、自殺、長寿、健康等の要因については様々な要因が連鎖しており、この中身を紐解く必要がある。そのため、こういった沖縄の人と心・コミュニケーション研究のテーマ設定の方法や既存の論文を通して概観し、同時に、先行研究や研究手法を教示する。また、論文構想や論文の柱をつくるための教示を行う。(以下、授業計画に示した一部タイトル中の年齢は2007年12月現在のものである)							
授 業 計 画							
第1回：100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか		第8回：沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか					
第2回：波照間島出身の高齢女性(97歳)の生活する場はどこか		第9回：沖縄への移住はまだ続くのか―「リトル東京」八重山の投げかける問題点とは―					
第3回：与論島出身の高齢者夫婦(85歳・84歳)は何故島で死ねなくなったのか		第10回：沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか					
第4回：「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳」(全国)の意味する内容とは		第11回：「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位―長野に学べることは何か―					
第5回：長寿の質としてのPPK(ピ・ペ・コリ)戦略(長野県)は果たして成功したのか		第12回：沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか					
第6回：沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか		第13回：沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか					
第7回：沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか		第14回：沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか					
		第15回：これまでの講義を振り返って(まとめ)					
テキスト： 必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。							
参 考 書： 近藤功行(共著)：ライフロング・ソシオロジー、山本慶裕・元田州彦(編)、東海大学出版会、1991							
学生に対する評価： 毎時間講義に関する感想用紙を作成してきます。これに毎回記述してください。欠席した場合も、この感想用紙を提出してください。左側には講義を欠席しても書けるいくつかの質問があります。講義の感想は書けなくても配布資料の感想を書いてください。なお、講義終了時期には試験にかわる課題を出します。これらの記述や試験にかわる課題の状況を総合的に評価して評価します。							
到達目標等 成績評価面	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必科 (異文化交流領域) 専修免(選必科目)	4単位	担当教員			
異文化コミュニケーション学特別演習Ⅱ (Inter-Cultural Communication Thesis Ⅱ)				近 藤 功 行			
授業の到達目標及びテーマ							
講義のはじめ5回では、日本や諸外国の生態系（生命科学）を通してみての視点から異文化コミュニケーションを考究する。次の5回では、健康科学からの視点で異文化コミュニケーションを考究する。次に、医療福祉学からの視点での考究を通して概説することで、研究を行う上での柱の築き方を導き出しつつ研究手法の教示につなげる。							
授業の概要							
各自が研究しようとしている、環境文化系、環境コミュニケーション分野、医療とコミュニケーション、死生観などに関する諸テーマについて検討・助言を行い、修士論文を執筆するための学習支援を行う。後期は個別指導が必要な時期であり、執筆者がオリジナルなテーマ設定のもとに全体構成がなされているか、各章立てが結論に有機的にむすびついているか、といったことを念頭におき、論文完成を導くことを全面支援する。							
授 業 計 画							
第 1 回：	人間と生態系からみる視点—人種・宗教・言語・アイデンティティ—	第 8 回：	沖縄に勤務する薬剤師にみる視点—医療とコミュニケーション—				
第 2 回：	環境、ヒト、進化、自然からの視点	第 9 回：	異文化間看護の研究を通してみる視点				
第 3 回：	地球温暖化問題がもたらす影響—ガラパゴス諸島・小笠原諸島ほかの生態系影響—	第 10 回：	肥満大国アメリカと健康、日本および諸外国の自殺を通してみる視点				
第 4 回：	人間と自然環境からみる視点	第 11 回：	虐待・ホームレス・生活苦・貧困・姥捨て山伝説を通してみる視点				
第 5 回：	ヒトはどのような進化を遂げようとしているのか	第 12 回：	世界の死亡原因：先進国と低開発国での違いを中心に				
第 6 回：	音楽療法・イルカセラピー・癒し・ホテルとチャペルを通してみる視点	第 13 回：	緩和ケア医療の方向性を考える視点—岡山モデルは日本型ホスピスの先駆的存在か—				
第 7 回：	医師と患者間関係にみる視点	第 14 回：	精神障害者の雇用を考える視点				
		第 15 回：	これまでの講義を振り返って（まとめ）				
テキスト：必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。							
参 考 書：近藤功行（共著）：介護福祉学習辞典（第2版）、中央法規出版、2007							
学生に対する評価：							
毎時間講義に関する感想用紙を作成してきます。これに毎回記述してください。欠席した場合も、この感想用紙を提出してください。左側には講義を欠席しても書けるいくつかの質問があります。講義の感想は書けなくても配布資料の感想を書いてください。なお、講義終了時期には試験にかわる課題を出します。これらの記述や試験にかわる課題の状況を総合的に評価して評価します。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名	学位取得選必科 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員				
英語教育学特別演習Ⅰ (English Education Thesis I)			Daniel Broudy				
授業の到達目標及びテーマ In serving students who have entered the initial stages of thesis research, this course aims to present systematic approaches to thesis planning, research, and design.							
授業の概要 This course is a second-year core seminar that introduces research students to the systematic exploration of a chosen topic. Discussions include generating and organizing ideas, finalizing a researchable topic, reviewing literature, formulating research questions, claims, proposals, predictions, theses and hypotheses, exploring ethical implications of human research, thinking critically, and sourcing research materials.							
授 業 計 画 第 1 回 : drawing boundaries around subjects and topics 第 2 回 : generating 第 3 回 : selecting, organizing and outlining 第 4 回 : hypothesizing 第 5 回 : testing hypotheses 第 6 回 : formulating research questions 第 7 回 : gathering data - applied approaches to questionnaires 第 8 回 : gathering data - applied approaches to interviews 第 9 回 : ethics in human research 第 10 回 : logical fallacies 第 11 回 : introducing reviewed literature 第 12 回 : quoting, paraphrasing in APA 第 13 回 : student-led discussions 第 14 回 : presenting results of raw field work 第 15 回 : summing up							
テキスト : Readings in this course are supplied by the teacher.							
参 考 書 :							
学生に対する評価 : Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名	学位取得選必修科目 (英語教育領域) 専修免(選必修科目)	4 単位	担当教員				
英語教育学特別演習Ⅱ (English Education Thesis II)			Daniel Broudy				
授業の到達目標及びテーマ In serving students who have reached the final stages of graduate studies, this course aims to present systematic approaches to thesis production and publication.							
授業の概要 This course second-year core seminar that continues discussions of preliminary research methods, deductive and inductive approaches, definitions of key concepts and words, theoretical frameworks, questionnaires, observations, and interviews. Students receive credit for participating in, leading discussions, submitting a completed thesis outline, and presenting the results of the course literature review at the end of the semester.							
授 業 計 画 第 1 回 : critical discussions of field work synthesizing and organizing data 第 2 回 : critical discussions of field work synthesizing and organizing data 第 3 回 : definitions: key concepts and words 第 4 回 : deductive approaches 第 5 回 : inductive approaches 第 6 回 : syllogistic reasoning 第 7 回 : expanding the syllogism in the Toulmin tradition 第 8 回 : strategies in drafting 第 9 回 : strategies in editing 第 10 回 : strategies in revision 第 11 回 : reflecting on conclusions and theorizing about future possibilities 第 12 回 : student-led discussions 第 13 回 : student-led discussions 第 14 回 : preparations for oral defense 第 15 回 : summing up							
テキスト : Readings in this course are supplied by the teacher.							
参 考 書 :							
学生に対する評価 : Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員			
英語教育学特別演習Ⅰ (English Education Thesis I)							
授業の到達目標及びテーマ テーマの絞り方、先行研究調査、方法論構築の仕方、資料収集の方法などを検討し、論文の書き方について学ぶ。							
授業の概要 各自が研究しようとする、最新のコミュニケーション重視の英語教育理論に関するテーマの設定と研究方法について検討・助言を行ない、修士論文執筆を行なうための学習支援を行なう。							
授 業 計 画							
第1回： イントロダクション		第9回： 研究計画案の提出					
第2回： 論文テーマの策定		第10回： 章立て案の作成					
第3回： テーマに沿った先行研究調査		第11回： 文献リストの作成					
第4回： //		第12回： 個別指導					
第5回： 研究方法の模索		第13回： //					
第6回： //		第14回： //					
第7回： 研究テーマ案の提出		第15回： //					
第8回： 中間報告							
テキスト： ウィリアム・リトルウッド原著、 池浦貞彦監修『コミュニケーション重視の言語教育』 開隆堂							
参 考 書： 鈴木恭史著『コミュニケーションの力をつける英語教育』 開隆堂 Friederike Klippel, <i>Keep Talking</i> , Cambridge University Press Ho Wah Kam & Ruth Y L Wong(eds.), <i>English Language Teaching in East Asia Today</i> , Eastern Universities Press, Singapore 斉藤美津子『話し言葉の科学』 サイマル出版会 斉藤美津子『聞き方の理論』 サイマル出版会							
学生に対する評価： 参加度（30%）、研究計画案（30%）および中間報告（40%）							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員			
英語教育学特別演習Ⅱ (English Education Thesis II)							
授業の到達目標及びテーマ							
各自が研究しようとする、英語教授法、通訳、翻訳分野に関するテーマについて検討・助言を行い、修士論文執筆を行うための学習支援を行い、学生は論文全体の構成など、論文作成の具体的な方法を学ぶ。							
授業の概要							
主として英語教授法、通訳、翻訳の分野での修士論文について完成をめざし、個別指導を行なう。							
授 業 計 画							
第 1 回：序論提出		第 9 回：個別指導					
第 2 回：調査、分析などの報告		第 10 回：論文の仮提出					
第 3 回：〃		第 11 回：個別指導					
第 4 回：各章の中間報告		第 12 回：〃					
第 5 回：〃		第 13 回：最終報告					
第 6 回：参考文献リストの提出		第 14 回：〃					
第 7 回：個別指導		第 15 回：要旨提出 & 論文完成					
第 8 回：個別指導							
テキスト：高島英幸編著『英語のタスク活動とタスク』大修館書店 小林敦夫著『通訳の極意』南雲堂フェニックス Douglas Robinson, <i>Becoming a Translator</i> , Routledge, London and New York							
参 考 書：David Nunan, <i>Language Teaching Methodology</i> , Prentice Hall Elaine Tarone and Geroge Yule, <i>Focus on the Language Learner</i> , Oxford University Press 柴田バネッサ『はじめてのウイスパリング同時通訳』南雲堂 教育科学研究会編『なぜフィンランドの子ども達は学力が高いか』国土社 Thomas M. Holtgraves, <i>Language as Social Action</i> , Lawrence Erlbaum Associates 向鎌治郎・丸山祥夫著『中学校英語で通訳ができる』ジャパン タイムズ							
学生に対する評価：参加度（20%）、中間報告（30%）、最終報告（50%）							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

授業科目名		学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員				
英語教育学特別演習Ⅰ (English Education Thesis I)								
授業の到達目標及びテーマ								
一作家の作品を読むことで、その作品に見られる作家の歴史や文化に対する基本的な考え方を抽出し、歴史・文化について考察する。つまり、ノンフィクションを題材と扱い、ある地域におけるある特定の時代の状況と、そこに生きる人々の人間模様について考察する。								
授業の概要								
英語教育のバックグラウンドとして英米文学の作家・作品研究を行なう。英米の歴史・文学・思想などについての理解を一人の作家を採り上げて考察する。本演習ではテーマ設定の方法や、最新の研究動向を踏まえつつ、受講学生の論文構想や論文の柱を作るための指導・助言を行なう。20世紀前半のアメリカのノンフィクション、特にジョン・スタインベックのノンフィクションを取り上げ、テーマ設定の仕方や研究方法をモデルとして教示する。								
授 業 計 画								
第1回： 英米文学と英語教育について		第9回： 批評文講読（1）；						
第2回： 英語教育における多読の重要性について		第10回： 批評文講読（2）；Thesis Statement 提出						
第3回： 外国文学として読むアメリカ文学の面白さと有用性について		第11回： 批評文講読（3）；Outline 提出						
第4回： 作品講読（1）：John Steinbeck's <i>Travels with Charley</i> を読む。		第12回： ペーパーの要旨口頭発表						
第5回： 作品講読（2）；資料収集の方法について		第13回： ペーパーについての質疑応答；修士論文の論題とテーマ設定について						
第6回： 作品講読（3）；Thesis Statement の書き方について		第14回： 修士論文のテーマ設定に関する質疑応答；修士論文の参考文献リスト提出						
第7回： 作品講読（4）；Outline の書き方について		第15回： ペーパー提出；修士論文の論題、テーマ設定、参考文献リスト提出						
第8回： 作品講読（5）；ペーパーのトピック提出								
テキスト： John Steinbeck' <i>Travels with Charley: In search of America</i> (Penguin Books)								
参 考 書： 参考文献と配布資料あり。								
学生に対する評価： 授業への参加 30％、提出物の評価 40％、レポートの評価 30％ 成績評価は、修士論文提出後に前・後期のものを一括して与える。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
	試験 (中間・期末試験)							
	小テスト・ 授業内レポート							
	授業態度・ 授業への参加度							
	受講者の発表							
	演 習							
	出 席							
	その他							

授業科目名	学位取得選必修科目 (英語教育領域) 専修免(選必修科目)	4 単位	担当教員				
英語教育学特別演習Ⅱ (English Education Thesis II)							
授業の到達目標及びテーマ 英米文学研究と英語教育の関連性を念頭におきながら、作家研究をする。論題・テーマ設定・参考文献リストを整備し、論文を書き上げる。							
授業の概要 論文のテーマ設定や研究方法を学んだ上で、英語教育に資する英米文学研究という視点から独自のテーマ設定を行い、新しい視点を採りいれて研究に深みと幅を持たせる工夫をする。環境と文学の関係を迫及するネイチャーライティングの視点もその一つである。本演習では、作家・作品研究にネイチャーライティングや英語教育などの視点を取り入れながら最終的には作家研究に焦点を絞ることを教示していきたい。							
授 業 計 画							
第 1 回： 論題について		第 9 回： 口頭発表会					
第 2 回： Thesis Statement について		第 10 回： 第一草稿提出					
第 3 回： 参考文献リストについて		第 11 回： 第一草稿についての話し合い					
第 4 回： Note-taking のカードの活用について		第 12 回： 参考文献リストの整備について					
第 5 回： Outline について		第 13 回： 注の付け方について					
第 6 回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー		第 14 回： 様式に従った最終稿の提出について					
第 7 回： //		第 15 回： 修士論文に関する最終審査					
第 8 回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー							
テキスト： ジョゼフ・ジバルディー著『MLA英語論文の手引き』第6版（北星堂、2007）							
参 考 書： 参考文献と配布資料あり。							
学生に対する評価： 内容： 30 %、文章力： 30 %、形式： 20 % 、口頭試問： 20 %							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							